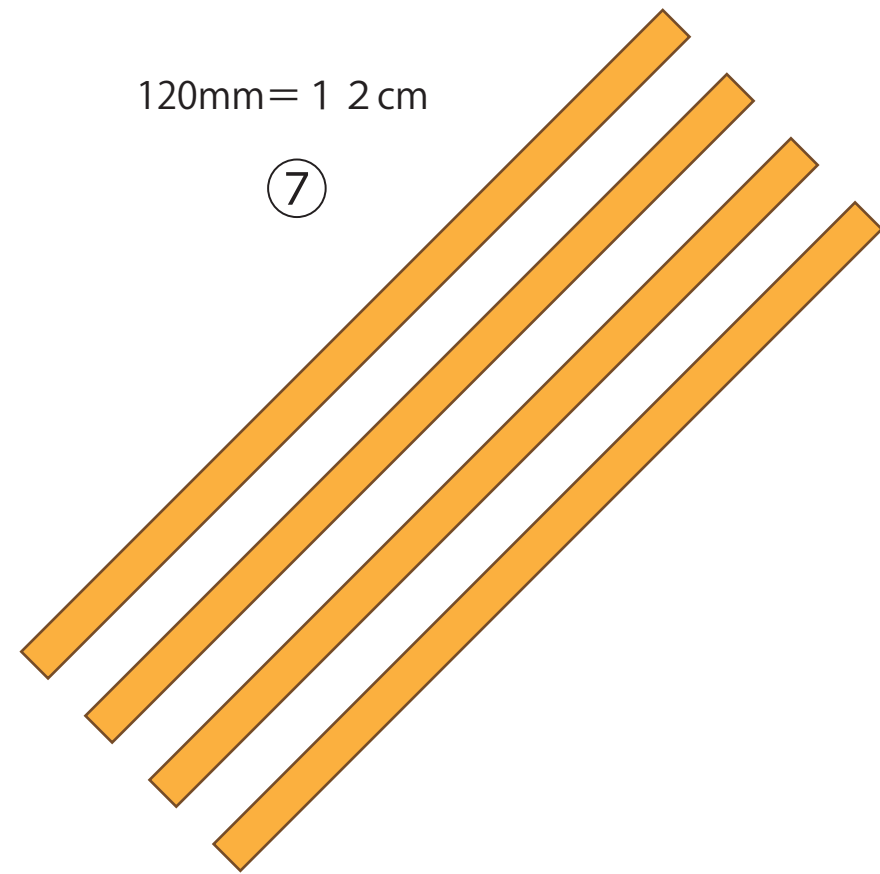


# 部材の名前と役割と寸法図



## 【垂木 たるき】

屋根の一番高い箇所である棟木（むなぎ）から桁（けた）にかけて、斜めに取り付けられる部材のことです。

## 【棟木 むなぎ/むねき】

桁と平行に取り付けられる、屋根の一番高い位置にある部材です。

130mm = 1.3 cm

⑤

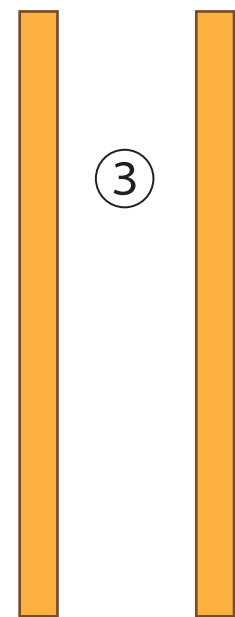


## 【通し柱 はしら】

最も重要な構造用の柱で、2階建て以上の建築物において、土台から軒まで通った継ぎ目のない柱のことです。

③

80mm = 8 cm



130mm = 1.3 cm



120mm = 1.2 cm

⑦

130mm = 1.3 cm

②

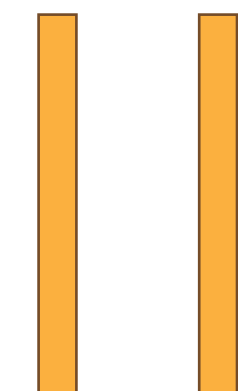
## 【桁 けた】

柱の上に、棟木と平行方向に横に渡して、建物の上からの荷重を支える部材のこと。

## 【柱 はしら】

建物を支える重要な部材です。特に重要で太い柱を大黒柱と呼んだりします。

①



50mm = 5 cm

## 【梁 はり】

柱の上に、棟木と直行する方向に横に渡して、建物の上からの荷重を支える部材のこと。特に最も外側の妻側にある梁を「妻梁（つまばり）」と呼びます。

④

## 【胴差し どうさし】

2階の床の高さで、建物の周りをぐるりと巡る横架材のこと。

⑥

100mm = 1.0 cm

